

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	322利便性の高い公共交通体系の充実		
施策のねらい (めざす姿)	環境に配慮した公共交通を利用して、目的地まで円滑に移動できています。連続立体交差事業等の進展により、交通渋滞が解消されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	マネージャー氏名	貞方 敦雄

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	コミュニティバスについては、運行形態の見直しを実施したが、利用者や市民の意見を伺い、見直しの成果の検証を行っていく必要がある。北総線沿線活性化や運賃問題には、周辺市と連携を図っていく。	③改革・改善内容	コミュニティバスは、令和2年度で運行事業者との協定が期間満了となるため、運行検討委員会による今後のコミュニティバスの運行形態を検討する。北総線沿線活性化対策等は、今後も周辺市と連携を図っていく。
②①に基づく取り組み結果	新たな運行開始1年後の平成29年11月に利用実態調査を実施し、コミュニティバス利用者の意見、要望等を把握するとともに、運行ルートやバス停上屋に関し運行事業者と意見交換を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民(公共交通利用者)	意図(対象をどうするのか)	買い物、通勤、通学及び公共施設への移動手段の確保
②施策の概要	鉄道、バス、タクシーなどの公共交通網の充実を図る。また、周辺市と連携し、北総線沿線の活性化により、北総線の利用増による市民が利用しやすい安定した運行に寄与する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	利用者の高齢化や、高齢者の交通事故の増加などから、さらなる公共交通機関の充実が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	・コミュニティバスの運行ルートやバス停留所の環境改善に関し運行事業者と意見交換を行った。 ・沿線地域の活性化を図るため、北総線沿線地域活性化協議会の活動に引き続き取り組んだ。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	鉄道駅乗降客数(1日あたり)	人	196,011	198,674	調査中	200,000
	ii	市内バス利用者数(1日あたり)	人	1,284	1,374	調査中	2,000
	iii						
③基本事業成果指標	i	新京成線連続立体交差事業進捗率	%	72	78	86	94
	ii	公共交通利用者数(1日あたり)	人	197,295	200,374	調査中	202,000
	iii	駅前広場整備数	箇所	3	3	3	5
	iv	市内駅エレベータ・エスカレータ設置率	%	83	100	100	100
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)		令和元年度予算		
事業費(千円)	589,533	576,124	(単位:円)		5,267円	739,103	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	コミュニティバスは、運行ルート、バス停留所の改善要望や高齢者等の移動確保等、利用者の利便性について検討する必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	運行見直し1年後の利用者アンケート結果では、回答者の約84%の方から70点以上(100点満点)の評価をいただいた。

V 今後の方向性

①施策の方向性	→維持
②上記方向性の説明	利用者の要望やかかる経費等を考慮しながら、コミュニティバスの利便性やサービス内容の質の向上につながる運行内容等の検討を行い、運行計画を策定していく。
③特に重点化する事務事業	コミュニティバス運行助成事業